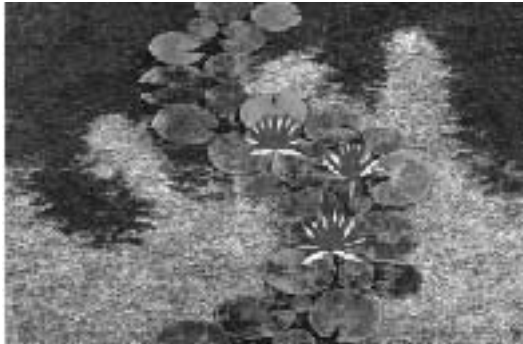




美術館だより

☎(63)7788



平松礼二「モネの池・光」

平松礼二館「新春—花の饗宴」

～3月26日(月)

次回予告「フランス・ノルマンディへの旅」

3月29日(木)～6月25日(月)

常設館も同時開催

- 【開館時間】9:00～16:30(入館は16:00まで)
- 【休館日】水曜日(21日は開館)・22日(木)振替休館・27日(火)展示替えのため臨時休館
- 【観覧料】町民の方 大人400円、小・中学生200円
毎月第3日曜日の「家庭の日」は、町民の方は観覧無料です。(町民証をお持ちください。)

アートトーク

美術館の喫茶室で、美術の話をしませんか。

- 【日時】3月13日(火)14:00～14:40
- 【会場】町立湯河原美術館喫茶室
- 【テーマ】「印象派探究」
- 【講師】当館学芸員
- 【参加料】200円(飲み物付)

ギャラリートーク

当館学芸員が展示作品の解説をします。

- 【日時】3月18日(日)10:30～11:00
- 【会場】町立湯河原美術館展示室
- 【参加料】観覧料のみ

こどもギャラリー ～3月13日(2階常設館前廊下)

町内小・中学校の児童生徒の皆さんの作品を週替わりで展示しています。

- 湯河原小学校
3月1日(木)～6日(火)<1・3・5年>
- 3月8日(木)～13日(火)<2・4・6年>

こどもギャラリーの期間中は、町内小・中学校の児童・生徒及び同居の家族は観覧無料です。

湯河原中学校、東台福浦小学校、吉浜小学校の展示は終了しました。

一喜一憂

美術館
一喜一憂

春を告げる梅の香りに思わず振り向いてしまいがち。昨年より開花が早い梅林を散策しました。凜然とした寒気の中で、いかにも春に先駆けて咲く清楚な香り。

梅に続く桜の花にもほのかな香りがあります。梅が清楚なら桜は優雅。清楚と優雅の二つを兼ね備えたのが、日本の理想とする女性の資質であると言われます。

梅林から続く川岸のしだれ桜がやがて成長し、夫婦の桜、そして、「桜郷」の地名どおりの名所になることを期待しながら、昨年の桜の頃、河川敷で花見を楽しむグループに出会ったことを思い出しました。昭和二十二年生まれの同級生というこの仲間たちは、戦後の第一次ベビーブームに生まれた、今年先陣を切る「団塊の世代」です。

定年を迎え、第二の人生に進む人も多くあると思いますが、敗戦という混乱期に生まれ、受験、就職など、あらゆる節目で厳しい競争を体験し、企業戦士として猛烈に働き、右肩上がりの経済成長とバブル崩壊の二つを経験してきた、この世代約八百万人には数という武器があります。

お金も時間もありません、この世代がどのようにお金を使い、どこに時間を費やすかで日本の経済社会は大きく変わってきます。単なる活発な消費者になるだけでなく、次の一歩が踏み出せる世代だと前向きに捉え、社会問題や政治経済に目を向け、変革の原動力になる新しい道をつくり、自分自身の価値観を生み出してほしいと思います。

誰にも人生には岐路があります。そして、道に迷って選んだ道、選ばなかった道があり、選ばなかった別の道は、どんな人生を辿ることになったのかは誰にもわかりません。

ただ、皆が等しく老いの入り口に差し掛かったことだけは確かです。物覚えが悪くなり、物忘れが多くなったのは年のせいなのか、もともと頭が悪いのかと最近よく思うようになって

りました。
ところが、同じような言葉をしばしば耳にする、一部を除いて誰もが年のせいにして、いることに安堵しつつ、脳をサボらせてしまっている自分に気づきます。頭の良し悪しは記憶力や読み書きのことではないと認識しつつも、それは、自分に対する正当化に過ぎず、やはり内心では老化に結び付けてしまっている。

以前、本当の頭の良さは判断力、想像力、抑制力、忍耐力、意志や意欲、感性の瑞々しさ、好奇心等々、記憶力も含めて人間らしい力を指すと専門家から教えられたことがあります。これらは、年を重ね経験が多いからこそ持ち得るもので、脳細胞が若い時より少なくなってもカンは働き、いよいよ冴える。それは、かけがえのない頭の良さであり、年を取れば取るほど、若い時とは比べられないほど知人の数も会う人も多いのだから、名前を忘れたり、覚えきれないのは当たり前、何の不思議もないと自分流に理屈をつけて慰めています。

イキイキと人間らしく、いつまでも生きるためには、日々慣れている仕事でも、家庭や社会の中で楽になすだけではなく、いつも少し無理をして脳を刺激する。脳もサボらせず、新しい努力をさせる生活に切り替えていくことも必要だと思えます。

傍らに置いた辞書に助けられ、忘れてしまった漢字を思い出しながら、よつやく四月号を残すのみの一喜一憂を書き上げました。

戦国時代の武将、伊達政宗は、戦場を立ち去る時、鎧の袖に梅の花を包んで持ち帰る風流人であったとか。

団塊の世代の皆さん、厳しい戦場を駆け抜ける中で摘み取った経験の一輪が、新しい人生の道筋にあっても香り続けてほしいと願っています。

町長

米岡幸男

